

未来に向かって

岡山大学病院 松浦 龍太郎

今回研修に参加した目的は2つあった。まず、1つ目はスタンフォード大学で行われている最新の研究や今後の構想、そして実際の医療現場を視て、聴いて、肌で感じることである。実際に研修を受けて、今まで自分の知らなかった世界を体験することができたし、分子イメージングの原理やMRIの様々な撮影方法など多くの新しい知識を得ることができた。2つ目は現在の自分自身の状況を打破することである。今取り組んでいる研究においても新しく配属された部署においても行き詰まっていたので、今回の研修内容や講義、参加されている方々との交流から今の状況を変える何かヒントが見つかるかもしれないと考えていたのである。今回の研修で多くのヒントを得ることができ、意見交換で色々な考え方を聴くことができた。今後の研究活動や職場で実践してみたいと思うのである。

また、今回の研修で一緒に生活した方々はかけがえのない仲間になったと思うのである。僕は一番年下であったのでみなさん人生の先輩方であるし、経験豊かで非常に頼もしかった。様々な研究分野の方が集まっておられたが、みなさんの思いは同じだったのではないであろうか。これからも連絡を取り合って協力していきたいと考えている。

最後に、スタンフォード大学の先生方や技師さんと接して、これからは診療放射線技師もグローバルな活動を展開しなければならないと感じた。やはり、取り入れるべきものは取り入れてより良い医療を提供していくことが重要だと思うのである。また、アメリカでも同様の事だが、現在行っている認定制度のような専門性の高い人材育成とそれに関わる環境整備もこれからより一層進めていかなければならない重要な問題だと感じた。

とても貴重な経験をさせて頂き、感謝しています。本当にありがとうございました。



(写真: VARIAN の工場にて集合写真)